

## はじめに

令和5年度は、これまで新型コロナウイルス感染症対策が基本にあった教育活動から、感染症対策は行いながらも、本来の学校生活を取り戻すことができた年となりました。

本校では「すべての人に包括的且つ公正で質の高い教育を行う」学校づくりを目標に多角的な教育活動に取り組んでいます。本校に在籍する児童生徒は、肢体不自由、知的障がい、発達障がい等様々であり、医療的ケアが必要な児童生徒も多数であることから、本校教職員は「すべての人に包括的且つ公正」であるために、そこに必要な研修・研究を絶えず行い、いかに質の高い教育を提供するかについて探求し続けております。

本紀要ではその中でも、児童生徒一人ひとりの客観的な実態把握の方法と、そこから導き出した目標設定や指導・支援方法の計画、また授業とその評価について焦点を絞って研究してきた内容を掲載いたしました。

- I. 全校研究においては、学習指導要領に基づく観点別評価をとらまえた授業づくりの方法を、実践例を交えて紹介しております。外部講師を招いての研修や、毎月の職員会議の中でのミニ研修などを通して、教職員の理解を深めることができました。
- II. 自立活動においての実態把握については、継続研究としてチェックリストの活用法と実践例を紹介しております。
- III. 具体的な授業実践としまして「書道パフォーマンス」を取り上げ、高等部の生徒たちが取り組んだ様子を紹介しております。学校でしか体験できないこと、なおかつ、それぞれの若い力を爆発させることの達成感を味わえる結果となりました。

本校の教育研究の一部ではありますが、ご一読いただき、ご高評賜れば幸いです。

今後も、茨木支援学校では、教職員が力を結集させ「すべての子どもに絶え間ない支援教育の実践」を行い、児童生徒一人ひとりの可能性と笑顔を輝かせていきたいと思っております。

令和6年3月 校長 大峠 貴弘  
准校長 南 貴子